

## G. ブルレの『音楽的時間』における「音楽的リズム」とテンポ 船木 理悠

フランスの音楽美学者ジゼル・ブルレ (Gisèle Brelet 1915-1973) は、主著『音楽的時間 —— 音楽についての新しい美学の試論 (*Le temps musical - essai d' une esthétique nouvelle de la musique*)』(1949) において、音楽と時間の関係を考察し、独自の音楽的時間論を展開した。ブルレによれば、「音楽的時間 (le temps musical)」が存在する。しかし、この「音楽的時間」の成立構造については、先行研究において部分的な指摘はあるものの、未だ包括的に解釈されているとは言い難い。

本稿では、「リズムを構成するということは、時間を構成することである [Construire le rythme, c' est construire le temps]」(同書 p. 363) という命題に着目し、リズムを構成する構造が「音楽的時間」の成立構造と等しいと判断し、ブルレの音楽的リズム論を考察する。そのため、「音楽的リズム (le rythme musical)」の説明における「同[le même]」と「他[l' autre]」(p. 264)、そして「諸々の総合の総合[une synthèse de synthèses]」(p. 281) という二つの構造を確認し、続いて、この二つが「主題[le thème]」と「変奏[la variation]」(p. 264) として包括されることを示す。このとき、「主題と変奏」は音楽内の個々の要素の先後関係と、それらを規定する普遍的「同」と個々の要素「他」との関係という二重の意味を持つと理解される。

更に、ブルレの理論の発展可能性として、リズムの具体的展開の場であるテンポを考察することで、「音楽的リズム」は音響に刻み込まれたテンポと「拍という単位 l' unité de temps」(p. 376) を通じて結びつき、具体的なものとなるという関係を示す。以上より、本稿はテンポとの関係を含んだ形でのリズム理解の可能性を提示するものである。